

令和2年度 川越市立高階北小学校 学校だより 049(244)0988
学校教育目標「たかまる学び かんじる心 きたえる体」

かがやき



7月の生活目標：「身の回りの整理整頓をしよう」

【学校が再開のいまこそ ～目標に向かって～】

先月から、半日の分散登校から始まり半日の一斉登校を経て、子供たちはほぼ通常日課の学校生活を送ることができるようになりました。校内では子供たちの輝く笑顔があちこちで見られるようになり、本来の学校の姿に戻りつつあります。再開して1ヶ月が経ち、1年生の子供たちは小学校の生活に慣れてきたように感じられ、2年生以上の子供たちは一つ上の学年に進級し、成長した姿が見てとれます。残念なことに、今年度はコロナ禍の影響で、子供たちの活動にも様々な制約が生じてしまいます。しかしながら、このような時だからこそ、子供たちはしっかりと目標を持ち、その目標に向かって一歩ずつ前進を続けてほしいと思っています。

さて、日本には目標に向けて弛まぬ努力を続け、偉大な功績を残した発明家がたくさんいらっしゃいます。特許庁の「日本の十大発明家」によると、①豊田佐吉（木製人力織機）②御木本幸吉（養殖真珠）③高峰譲吉（タカチアスターゼ、アドレナリン）④池田菊苗（グルタミン酸ナトリウム）⑤鈴木梅太郎（ビタミンB1、ビタミンA）⑥杉本京太（邦文タイプライター）⑦本多光太郎（KS鋼、新KS鋼）⑧八木秀次（八木・宇田アンテナ）⑨丹羽保次郎（NE式写真電送機）⑩三島徳七（MK鋼）の10名の方があげられています。



このように、日本の発明家として多くの方がいらっしゃいますが、最近では、青色発光ダイオードの発明でノーベル物理学賞を受賞された中村修二さんの名前が思い出されます。その中村さんが自著のなかで、ご自身の経験を述べられています。そのなかで、人生で一番大切なキーワードとして「できない理由を探すな。どうしたらできるかを考えろ。」をあげています。中村さんは、自分の専門外の仕事から独学に近い状態で研究し、部品の調達から研究機材の作成までこなし、最終的には、赤色・青色発光ダイオードの発明をされました。

会社員時代には、まだ発明されていなかった特殊な青色発光ダイオードの開発をしたいと社長に相談し、会社から約3億円の開発費用をいただきました。その後、研究に使う機械をつくる勉強をするため、フロリダ大学に1年間留学します。帰国してから研究の装置の改造に取りかかりますが、研究の取りやめを求められてしまいます。その後、窒化ガリウムの結晶を作製する新しい機械を発明し、それが青色発光ダイオードの発明につながっていくのです。

私たちは、いろいろな壁にぶつかると、壁を乗り越えようと努力し、それでもうまくいかないときには、「〇〇がないからできない。」とできない理由を探してしまうことがあります。

しかし、中村さんは、「〇〇がないからできない。」ではなく、「自分がやりたいことは〇〇だ。そのためには、〇〇が必要だ。」という前向きな姿勢で自分で決めた目標に向かっていきました。その努力の結果が、新しい発明につながっていったのだと思います。

「目標に向かっていく努力」を自分の生活のなかに位置づけていくことが、これから一人一人の「目標に向かう道」につながっていきます。子供たちの夢を育み、それを支えていくことが私たち教職員の使命と考え、子供たちの毎日の姿を見つめていきたいと思っています。

保護者並びに地域の皆様には、子供たちの様々な取組や日頃の頑張りに応援をよろしく願いいたします。

参考：「考える力、やり抜く力 私の方法」中村修二 著

【校長：神田郁夫】

